

冬を楽しむ～持ち物 ルール～

ここが ポイント

楽しく遊ぶための留意点

生活科で冬の雪遊びをするとき、子どもたちはワクワク、ドキドキし楽しい予感でいっぱいです。しかし、普段と違う環境となると、けがの危険性も高くなります。遊ぶときの服装や持ち物を確認し、注意点などをしっかり指導することが大切です。

冬は、風邪やインフルエンザなどが流行し、体調を崩しやすい時期でもあるので、一人一人の健康把握を行うなど、配慮が必要です。

- 雪遊びの前日や当日の天候を確認する
- 遊ぶ場所（校庭や公園）の雪の中に危険物がないかをチェックする
- 遊ぶ場所や人数を考慮し、適切な場所か確認する
- 当日の子どもたちの健康状態を把握する
- 冬でも脱水症状などに気を付け、水分補給ができるようにする
- 子どもたちと、けがをしないための約束をする

ここが ポイント

楽しく遊ぶための準備や道具

広い場所と雪があれば、子どもたちは楽しく遊べるものです。子どもたちが防寒対策をできるようにして、安全に楽しく遊べるように注意しましょう。

- スキーウエア上下
- 手袋(スキー用と遊び終わった後の替えの手袋があると GOOD !)
- 厚手の靴下(教室に戻った時に替えの靴下があるとよいでしょう)
- ネックウォーマー(首元から雪が入ると、体温を下げる原因となります)
- 帽子(耳まで覆え、周りの音も聞こえやすい毛糸の帽子がいいでしょう)
- 長靴(靴の中に雪が入らないようにパウダーガードを上にかけます)

Active

スコップ、シャベル、そり、バケツ、ペットボトルなどの道具を子ども自身で用意すると魅力的ですし、創造的に行動する姿も期待できます。

その他、子どもたちの実態に合わせて、家庭に着替えの用意を便りでお願いしたり、汗拭きタオルを用意してもらったりすることも考えられます。

ここが
ポイント

楽しく遊ぶためのルール

【遊び場所でのルール】

○危険なことをしない

→軒下や雪が深いところへ行かない

遊具は滑るし雪解けのため穴が開いている場合があるので使わない

○目の届く範囲で遊ぶ（勝手に範囲を広げない）

【遊び方のルール】

○楽しく安全に遊べるようなルールにする。「それは安全かな。」「それはみんなが楽しいかな。」など、一つ一つ確認することで安全と楽しさを意識してルール作りができるように促す

あるある NG!

学習の約束をはっきりしていないと活動中や活動後に影響します。

- ・なかなか終わらない →どんなに楽しくても時間になつたらやめる
→片付けを始める
- ・すぐに教室に戻らない→カードにかく、教室に戻るなどの約束を徹底しておく

雪遊びを通して、子どもたちは、冬の自然を生かして友達と楽しく遊んだり、身近な自然としての雪や寒さを使った遊びを工夫したりする学びをします。

凍ったり、溶けたり、固まったり、サラサラしたりする雪や氷を楽しみながら、その不思議さや面白さに気付き、その特性を利用しながら遊びを創り出していくきます。雪遊びのよさや面白さに気付かせる関わりをしたいものです。

気付き！

『雪はっけんカード』を用意し、「はっけんしたこと」をカードに記入すると学びが深まります。活動の中での気付きや学びを表現活動で位置付け、いつ、どこで、どんな形式（カード）で残していくのか、まとめていくのかを確認しておくとよいでしょう。

また、カードをかき終わった子は、自由に交流し、学び合えるようにしておくと気付きが広がり、友達同士でもよさが価値付けられます。

さらに、『雪遊びマップ』を用意し、この場所でこんな遊びが楽しい情報を位置付けると、「次は、ここで遊びたいな。」など、見通しをもって活動することが可能になります。自然発生的、または目的をもったチームができます。協力して活動する子どもの姿も見られるようになります。